

# 都市の防災とまちづくり



■事例発表

## オハイオ州コロンバス市の防災について

コロンバス市長 マイケル・コールマン

## リトルロック市の災害対策

リトルロック市長 マーク・ストドラ

## 「全国の復興モデル」を目指す岩沼市の取り組みについて

岩沼市長 井口経明

## 「より強い、より元気な、より美しい八戸」の実現を目指して

八戸市長 小林 眞

全国市長会は、8月8日、全国都市会館において、米国市長会と共催で「第10回日米市長交流会議」を開催。全国市長会からは、会長の森民夫・長岡市長をはじめ、副会長の井口・岩沼市長、副会長の黒木・日向市長、行政委員会委員長の南・天理市長、行政委員会副委員長の小林・八戸市長、社会文教委員会副委員長の大橋・裾野市長が出席。一方、米国市長会からは、副会長のスコット・スミス・メサ市長、執行委員のマイケル・コールマン・コロンバス市長、諮問委員のマーク・ストドラ・リトルロック市長などが出席しました。

今回の会議のテーマは「都市の防災とまちづくり」。日本側からは、井口・岩沼市長および小林・八戸市長が、米国側からは、マイケル・コールマン・コロンバス市長およびマーク・ストドラ・リトルロック市長が事例発表を行い、その後、自由討議を行いました。

ここでは、4市の市長による事例発表の内容をご紹介します。

事例発表

## オハイオ州コロンバス市の防災について

コロンバス市長 マイケル・コールマン

### 災害対応の4つの柱

私が市長を務めるコロンバス市はオハイオ州最大の都市。金融や行政の中心地としてにぎわいを見せています。また、輸送、流通、物流の拠点地域でもあり、市内のポート・コロンバス国際空港から全米の主要都市に容易にアクセスできる利点があります。

コロンバス市に限らず、アメリカの各都市は、常に災害発生の際の隣り合わせの状態にあります。特に、コロンバス市があるアメリカ中西部は、雪、アイスストーム（凍った雨を伴う暴風）、竜巻、洪水などの災害が起きやすい地域です。

こうした災害は、いつ、どのような形で発生するか、また、その規模はどれだけのものなのか、事前に把握することはできません。その



中で、どのように対応していけばいいのでしょうか。私は、これまでの市長としての経験を

踏まえて、次の4つの要素が重要なのではないかと思います。「準備」「教育」「コミュニケーション」「参画」の4点です。

「準備」とは、できるだけ予測を行い、財政的にもそのための備えを怠らないこと。さらに、重要なのは、市民に対する災害関連の「教育」です。そして、各都市間はもちろん、区画同士、州政府との「コミュニケーション」を常に密にし、災害が起こった際には、どの機関がどのような役割を果たすのか、事前に理解しておくことも欠かせません。

その上で、住民や各機関の「参画」の下、災害に向けた対処法を構想し、用意したシナリオに基づいてトレーニングを積み重ねる。こうした備えをすることで、より実効性が高まるのだと思います。

### 災害に備えた各種システムの構築

実際、私は市長に就任して14年目ですが、これまで洪水や疾病など、市民の安全を脅かす、さまざまな問題に対応してきました。この2週間前にも、鉄道の脱線に伴う、爆発事故が市内で発生しました。住宅地ではなかったこと、有害な薬品の積載をしていなかった

たことが幸いして、二次的な重大被害は起きませんでした。コロンバス市では、こうした問題が発生した際、市民に危険を伝えるための「サイレンシステム」に大規模な投資をしています。

また、連邦政府、州政府、市、さらには他自治体との間で調整しながら、「大気監視システム」も運用しています。さらに流通の中心地ということもあり、運び込まれる物資の管理も厳重にし、危険物を搭載する場合には、市を迂回して運ぶ規則も定めています。

併せて住民を巻き込んで、各種災害を想定した訓練も定期的に行っているほか、緊急事態には、各政府機関はもとより、輸送会社、医療関係者などの団体の代表者が「緊急センター」に集い、対応に当たる仕組みも定められています。災害被害が緊急センターにも波及ケースも想定し、バックアップのセンターも設定するなど、万全の体制を構築しています。

さらに効果を挙げるには、テクノロジーの活用も不可欠でしょう。同時多発テロが発生した2001年以降、多くの都市が連邦政府から、国土安全保障に関する予算を受け取りましたが、コロンバス市では、災害に対応するための、最先端のテクノロジーを整備しました。

市長は、市民の安全を守る一義的な責任を負っています。災害における市民の安全を確保するために、これからも力を尽くしていきたいと考えています。

事例発表

# リトルロック市の災害対策

リトルロック市長 マーク・ストドラ

## 市長の役割は想定外のことを想定する

リトルロック市は、アーカンソー州最大の都市であり、地域の商業、文化の中心を担っています。また、かつてアーカンソー州知事を12年間務め、その後第42代アメリカ大統領も務めたビル・クリントン氏とゆかりの深い都市でもあり、そのことを私は大変誇りに思っています。

このアーカンソー州も災害が多発する地域です。しばしば洪水が発生するほか、アメリカで最大の「ニューマドリッド断層」が市内を走っており、1800年代には大規模な地震を引き起こしたことも知られています。

さらに、地域のエネルギーの3割を提供する原子力発電所が60マイル(約96・5km)圏内に立地しているほか、危険薬物の漏えいやテ



ロをはじめとした人為的な災害の懸念もあります。

このように、中でも最も私たちが恐れている災害が竜巻の発生です。実は、今年も2度にわたり、直撃を受けたところで、このような各種災害の危険性がある中で、市長はどういう役割を担うべきなのでしょう。私は、「想定外のことを想定する」ことが市長の責務だと考えています。今回の日本の東日本大震災を見ても明らかですが、天災はいつ発生するのかわかりません。しかし、いつか必ず発生します。市長はこのことを必ず心にとめておかななくてはならないでしょう。だからこそ、そのための準備をするとともに、市民や関係機関とのコミュニケーションを充実させる。そうした備えが求められるのだと思います。

## 各種基準を見直し、市民の安全を確保

では、私自身が市長として、これまでどのような備えをしてきたのか、具体的にご紹介したいと思います。まずは、竜巻の被害が多発する地域では、関係機関と連携して、建築基準の見直しを実施しました。具体的には「毎時100m以上の風速を伴う竜巻が発生した」というような、極限の状況を想定して、

基準を厳格化したわけですが、これにより建築物の強化を図ることができました。同時に、竜巻に伴って発生する洪水にも備えて、川の堤防の強化も図りました。

さらに、私たちは2001年の同時多発テロを経験して、いかに各機関のコミュニケーションが、市民の命を守るために、重要であるかを学びました。リトルロック市ではそれを踏まえて、1000万ドル以上を投じ、無線コミュニケーションシステムを整備したほか、いざというときには各行政区域の消防士、警察官、病院やER(救急救命室)の関係者など、さまざまな団体と連携して速やかに状況の把握や意思の疎通を図れるよう、コミュニケーションシステムとの共有化も図りました。これにより、迅速に人命救助を行える体制を構築できました。

また、最新の機器を利用したモニタリングを運用しているほか、危険廃棄物の管理にも注意を払っています。マイケル・コールマン市長がご紹介されたように、リトルロック市でも迂回ルートも整備し、住民に有毒な薬品の被害が及ばない仕組みを構築しています。

こうした住民の安全を守る取り組みは、われわれの責務です。いざとなれば、警察官や消防士とともに、人命救助にも積極的に当たります。もちろん、財政的な問題は常につきまといりますが、そのための準備を怠らず、最善を尽くしていかなければいけないと考えています。

事例発表

# 「全国の復興モデル」を目指す 岩沼市の取り組みについて

岩沼市長 井口経明

## 想定をはるかに超えた津波で、被害が拡大

震災前の平成22年に公表された、宮城県沖を震源とする地震の発生確率は99%(20年以内)。これに伴い、岩沼市では、民家や公共施設の耐震化、自主防災組織結成の促進、専門家を招いた防災講演会の実施など、できる限りの「備え」を行ってきました。

しかし、それでも東日本大震災は、史上最悪の被害を岩沼市に及ぼしました。専門家の指導をもとに策定した「津波浸水予測」をはるかに超えた大津波がまちを襲ったのが主な原因です。改めて、自らの命は自ら守る、「自助」の重要性を再認識させられるとともに、想定を超えた事態にも「想像力」を働かせて、対処法を自ら「創造」していくことが肝要だと感じました。



た次第です。

## スピード感を持って復興への道筋を示す

復旧・復興を進める中で、大変なことの

つが財源の問題です。災害廃棄物の処理に限定しても、300億円以上の費用が必要になります。岩沼市だけでは、対応できません。当然、国に頼らざるを得ないわけですが、こうした国の支援がややもするとコスト意識を失わせ、結果的に自立を損なわせた面も見られました。また、震災から半月が経過した段階でも、ガソリンが手に入らず、通勤や買い物に支障が出るなど、市民生活に大きな影響が生まれました。こういうときこそ、強い政治力が必要なのではないかと、強く感じました。

さらに、今回の震災では、報道の格差が支援の格差を生んだ面もありました。被害の大きい地域の状況は、連日テレビや新聞を通じて全国に報道され、支援の手が差し伸べられた反面、比較的被害が少なかったとされる岩沼市はほとんどメディアに取り上げられませんでした。

情報発信の難しさを感じる一方で、ただ手をこまねいていても仕方がありません。スピード感を持って物事に対応し、トップランナーとして復旧・復興を進めれば、必ずや報道されるはず。そのように発想を変え、早期

での避難所の閉鎖、コミュニティ単位での仮設住宅の同居、サポーターセンターの設置など、ほかの被災地域に先駆けた取り組みを推進。復興計画もいち早く策定し、今年4月には全国で初めて防災集団移転が認可され、8月5日には復興大臣を迎え、全国第一号で造成工事起工式を行いました。

今後は、災害瓦礫を活用した津波除け「千年希望の丘」をつくる計画。完成すれば減災効果はもちろん、震災の記憶を引き継ぐ「メモリアル」効果、さらには「復興」の象徴としても機能するでしょう。

ところで、東日本大震災は、岩沼市と隣の甚大な被害を与えました。当初は再開自体も難しいのではと見られていたほどですが、震災直後から米国海兵隊による「トモダチ作戦」が行われ、早期の復旧が実現しました。さらに姉妹都市を締結しているナバ市、友好都市を締結しているドーバー市などからも物心両面の支援をいただきましたし、今年の3月にはジョン・リース札幌総領事が来訪され、復興と友好を記念した桜を植樹いただきました。心温まるご支援の数々に改めて日米両国の強い絆を感じました。

東北地方の復興、岩沼市の復興こそが皆さんにご支援いただいた恩返しです。これから復興のトップランナーとして力を尽くし、震災前を超える、住みよいまちをつくっていきたく考えています。

事例発表

「より強い、より元気な、より美しい八戸」の実現を目指して

八戸市長 小林 眞

国内外の支援に感謝

東日本大震災で八戸市に押し寄せた津波の高さ（気象庁の推計による湾口での高さ）は6.2m。最も人的被害が大きかった石巻市は7.7mですから、それほどの違いはありません。しかし、八戸市では被害額が1212億円と大きかったものの、亡くなられた方は1名と、人的被害を最小限にとどめることができました。

その要因は、まちの構造にありました。八戸市は海岸部に港湾施設が整備され、大規模な工場地帯も形成されています。津波のエネルギーが港湾施設、工場地帯で減殺されたために、その後ろに広がる住宅地への影響を小さくすることができたのです。さらに、これまで何度も被害にあつてきたまちです。津波に対する市民の意識も高く、避難活動がス



八戸市長 小林 眞

ムーズに行われたことも功を奏しました。その一方で、震災直後を振り返ると、停電、通信の途絶、燃料不足に伴い、関係機関との連絡や物資の輸送などにも支障をきたしたほか、被害状況の把握、避難者支援、応急復旧などの対応にも苦慮しました。

そのような中で、大きな力となったのは、国内外からの心温かい支援でした。自衛隊をはじめとした関係機関や全国からのボランティア、さらには各地からの物資の提供が、復旧活動を支えてくれました。米軍三沢基地からも多くのボランティアが訪れ、積極的に災害瓦礫の処理に当たっていただいたところであり、これらの支援に深く感謝したいと思います。

このように八戸市自体は、被災を受けた都市として、復旧活動に明け暮れたわけですが、その一方で、岩手県や宮城県の被災地への支援も積極的に展開してきました。震災直後から物資の提供や給水支援を実施したことに加えて、市内のセメント工場の下、岩手県・宮城県の被災地域ではほとんど進んでいない災害瓦礫の処理も積極的に受け入れ

ています。

目指すは創造的な復興

大震災を経験して、再認識させられたのは「共助」の重要性でした。八戸市では、自主防災組織が立ち上がっている地区では、震災直後においても、住民たちが協力し、スムーズに炊き出しなどの活動が行われました。その一方で、未組織の地区では、そうした活動が手際よく行われず、行政に批判やクレームが集中し、大きな混乱が生じました。これを踏まえ、普段からいざという場合に備え、地域コミュニティを中心に住民たちが連携し、支え合う体制を構築することの大切さを痛感したところです。

さらに、高齢者や障がい者、妊婦さん、乳幼児を抱えたお母さんなど、いわゆる災害弱者への対応の難しさも感じました。これを教訓に、今後、災害が発生した場合には、一般の避難所生活では特別な配慮を必要とする方々を対象に「福祉避難所」を開設することを決定し、多くの社会福祉事業者と福祉避難所の確保に関する協定を締結しました。

八戸市では、昨年9月に復興計画を策定しましたが、岩沼市と同様に、この災害を契機として、まちの状態を元に戻すだけではなく、「創造的な復興」を旗印に、「より強い、より元気な、より美しい八戸」の実現を目指していきたいと考えています。